

遊休農地(桑園等)利用による 粗飼料の生産調製技術

福島県畜産試験場沼尻支場
平成15年研究報告

1 部門名

飼料作物－草地－作業技術
分類コード 08－01－29000000

2 担当者

半杭真一・小林 準・富永 哲

3 要旨

粗飼料生産について、大型機械による収穫・調製が困難な狭小分散地において、水稲用バインダを用いることによって、省力的に収穫と乾草調製を行うことが可能であった。

水稲用バインダを用いた刈取では、321～740kg/10aの乾物収量が得られた。

水稲用バインダは、刈取と同時に結束を行うため、牧草束をハセ掛けすることによって、乾草調製の省力化できた。乾草への調製には好天時に刈取後5日を要したが、天候不順時にはビニルハウス内で調製が可能であった。乾草調製後の収納についても、牧草束は容易に拾い上げることができるため、水稲用バインダの利用によって省力化が可能であった。

水稲用バインダの作業性は、狭小分散地における牧草の収穫・調製技術の慣行体系であるブッシュクリーナによる刈取およびフォークによる反転と比較して、作業時間をおよそ43%短縮、OWAS法による「筋骨格系に有害」とされる作業姿勢の割合を半分以上に減らすことが可能であり、労働負担を小さくすることができた。

狭小分散地は、県内中山間地に多く存在し、なかには遊休化しているものもあるが、牧草を栽培する畜産的利用によって遊休農地の解消に寄与することが可能であり、水稲用バインダによる収穫・調製体系は畜産的利用のボトルネックとなる労働負担を軽減するとともに、既存の機械の有効利用を可能にする。

4 その他の資料等

なし